

## 据付工事説明書

ガスヒートポンプエアコン

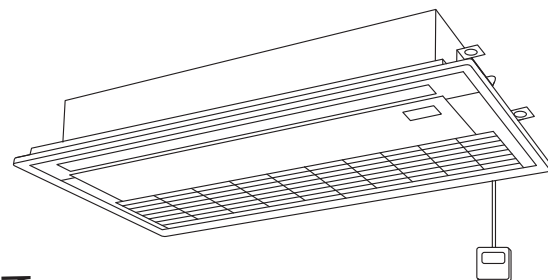
### 高天井用1方向カセット形

(S-DS1シリーズ)

室内・室外ユニットには、他に「据付工事説明書（試運転編）」  
「据付工事説明書（電気工事編）」の説明書が添付してあります。必ず参照してください。

室内ユニット品番

S-G28DS1	S-G56DS1
S-G36DS1	S-G71DS1
S-G45DS1	S-G80DS1



据付工事説明書をよくお読みのうえ、正しく安全に施工してください。特に「安全上のご注意」（1～2ページ）は、施工前に必ずお読みください。

据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに「取扱説明書」（室外ユニットに添付）にそってお客様に使用方法、お手入れのしかたを説明してください。

また、「据付工事説明書」は、「取扱説明書」や「保証書」（室外ユニットに添付）とともに、お客様で保管いただくように依頼してください。

## 安全上のご注意

必ずお守りください

人へ危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。



**警告**

「死亡や重傷を負うおそれがある内容です」



**注意**

「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。



してはいけない内容（禁止事項）です。



実行しなければならない内容（強制事項）です。

パナソニック株式会社 設備ソリューションズ事業部

〒370-0596 群馬県邑楽郡大泉町坂田1丁目1番1号

© Panasonic Corporation 2012-2023

ACXF60-17363  
82664140029003  
DC0412-30523

## ⚠ 警告

- 据付工事は、R410A用に製造された専用のツール・配管を使用し、確実に行ってください。使用しているHFC系冷媒(R410A)は、従来の冷媒に比べ圧力が約1.6倍高くなります。専用の配管部材を使用しなかったり、据え付けに不備があると、破裂、けが、または水漏れや感電・火災の原因になります。
- 据付工事・電気工事は販売店または専門業者に依頼してください。ご自分で据付工事・電気工事をされ不備があると、水漏れや感電・火災等の原因になります。
- 据付工事・電気工事は、“据付工事説明書”“据付工事説明書(電気工事編)”に従って確実に行ってください。据え付けに不備があると、冷媒漏れ、水漏れ、感電、火災等の原因になります。
- 電気工事(アース工事を含む)は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および“据付工事説明書”、“据付工事説明書(電気工事編)”に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。電源回路容量不足や施工不備があると、感電・火災の原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定してください。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。
- 据え付けは、重量にじゅうぶん耐える強固な場所へ確実に行ってください。強度が不足している場合は、ユニットの落下や転倒などによる事故の原因になります。
- 作業中に冷媒ガスが漏れた場合は換気をしてください。冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 設置工事終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認してください。冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 台風などの強風、地震などに備え、所定の据付工事を行ってください。据え付けに不備があると、室内ユニットの落下や転倒などによる事故の原因になります。
- 付属品または別売品は、必ず当社指定の製品を使用してください。また、取り付けは専門業者に依頼してください。ご自分で取り付けをされ不備があると、感電や火災、水漏れの原因になります。
- 電気配線は、専用の分岐回路を用い、他の電気機器を併用しないでください。併用した場合に、ブレーカー落ちによる二次被害の原因になります。
- 高圧ガス保安協会(KHK)の冷凍空調装置の施設基準(S0010)に基づき、万一室内に冷媒ガスが漏洩しても、限界濃度 $0.42\text{kg}/\text{m}^3$ を超えないようにしてください。超える場合には、隣室との間に開口部を設けるか、またはガス漏れ検知警報設備と連動する機械換気装置を設けてください。万一、狭い室内に冷媒ガスが漏洩して限界濃度を超えると、酸欠事故の原因になります。
- 冷媒配管工事終了後はチツソガスによる気密試験を行い、漏れのないことを確認してください。冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 室内ユニットのドレン配管はイオウ系ガス等有毒ガスの発生する排水溝に直接入れないでください。有毒ガスが室内に流入して中毒などの原因になります。
- 可燃性ガスの漏れの恐れのある場所への設置は行わないでください。万一、ガスが漏れてユニットの周囲に溜まると、発火の原因になることがあります。
- 室外ユニット排気ドレン管と、室内ユニットドレン管は共用しないでください。排気ガスが室内に流入し、中毒及び熱交換器等を腐食させるなどの原因になります。



- アースが不完全な場合は、感電の原因になることがあります。  
※アース端子は電装ボックス内部にあります。(接地工事はD種〈旧第三種〉接地工事です。)  
※静電気による帯電およびノイズを吸収するため、必ずアース工事を行ってください。

## ⚠ 注意

- ドレン配管は、“据付工事説明書”に従って確実に排水する様に配管し、結露が生じないよう保温してください。配管工事に不備があると水漏れし、家財等を濡らす原因になることがあります。
- 冷媒配管の断熱は、“据付工事説明書”に従って確実に断熱してください。断熱しないと、水漏れや、やけどの原因になることがあります。(ガス管の断熱材は耐熱 $120^{\circ}\text{C}$ 以上のものを使用してください。)
- 冷媒ガスを取り扱う際は、直接冷媒ガスに触れないでください。凍傷の原因になります。
- 濡れて困るものの上に室内ユニットを据え付けしないでください。高湿度雰囲気状態で運転する場合や、ドレン出口が詰まっている場合は、室内ユニットからも露が落下する場合があります。
- 漏電しゃ断器(高周波対応品)を必ず取り付けてください。漏電しゃ断器が取り付けられていないと感電・火災の原因になることがあります。

■ 据付工事説明書に記載されていない方法や、各説明書に記載されていない本体及び付属品への追加工、指定の部品を使用しない方法で据え付けられたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その据え付けが原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。

# 1. 付属品

	名 称	形 状	個数	備 考
ユニットの吊り下げ用	据 付 原 寸 図		1	梱包箱に印刷
	据 付 ゲ ー ジ (梱包の側面パッド利用)		1	ゲージA (配管側へ取り付け)
			1	ゲージB (配管と反対側へ取り付け)
	ワ ッ シ ャ ー		8	吊り金具 上下
	ネ ジ		4	据付原寸図及び据付ゲージ兼用
冷媒配管用	断 熱 テ ー プ	 白色 (断熱用)	2	液管用、ガス管用 フレアナット部用
	フ レ ア 断 熱 材		1	液 管 用
			1	ガ ス 管 用
ドレン配管用	ド レ ン ホ ー ス		1	ドレン配管接続部用
	ホ ー ス バ ン ド		1	ドレン配管接続部用
	パ ッ キ ン		1	ドレン配管接続部用
	ド レ ン 断 熱 材		1	ドレン配管接続部用

●吊りボルトは3/8" またはM10を使用してください。 ●吊りボルトおよびナットは現地手配。

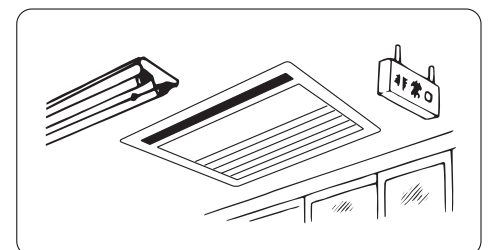
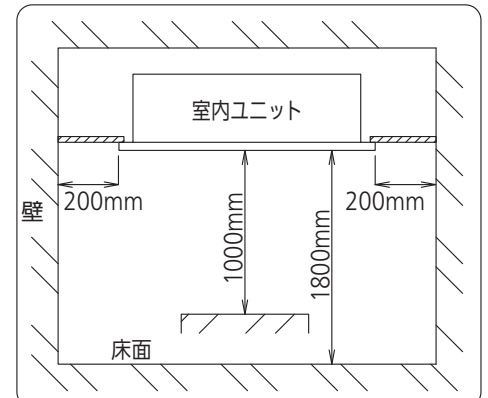
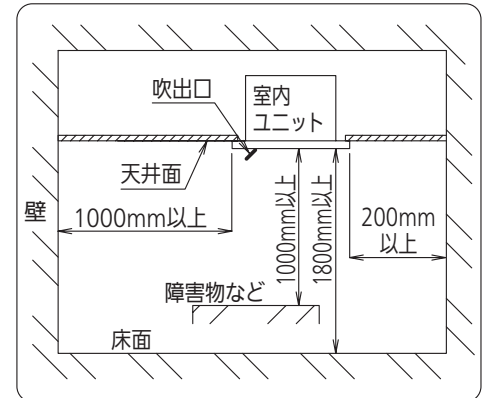
## 2. 据付場所

### ⚠ 警告

1. 室内ユニットの重量にじゅうぶん耐える強固な天井に据付けてください。

### ⚠ 注意

2. 冷氣（暖気）の循環しやすい場所に据付けてください。  
吹出口および吸込口の風の通路に障害物がないようにしてください。
3. 外気の入りやすいとびらや窓の近くに室内ユニットを据付けることは、できる限り避けてください。  
露がついたり、霧吹きや露飛びが発生することがあります。
4. ドレン水の処理しやすいところに据え付けてください。  
●ドレン配管は屋内を通る部分をできるだけ短くしてください。  
●屋内を通る部分のドレン配管は必ず断熱してください。  
●ドレン水は隣家などに迷惑のかからないようにしてください。
5. 室内ユニットと障害物および床面までの距離は図に従ってください。
6. 騒音が増大しないように天井裏へ強固に取り付けてください。
7. 油を多量に使用する中華料理店などの調理場や、機械工場などに室内ユニットを据え付けしないでください。  
油が熱交換器や樹脂部品等に付着して能力の低下、霧吹きや露飛びの発生、樹脂部品の変形や破損の原因になります。
8. 可燃ガスの発生・滞留・漏れのおそれのあるところは避けてください。  
万一ガスが室内ユニットの周囲にたまると、発火・爆発の原因になります。
9. 亜硫酸ガス、腐食性ガスの発生するところは、避けてください。  
銅管、ろう付け部が腐食し、冷媒ガスが漏れる原因になります。
10. 高周波が発生する機器（インバータ機器、自家発電機、医療機器、無線通信機器）のあるところは、避けてください。エアコンの誤動作や故障の原因になったり、それらの機器へ弊害を与える場合があります。
11. 電圧変動の大きいところに室内ユニットを据え付けしないでください。
12. 有機溶剤が発散するところに室内ユニットを据え付けしないでください。
13. 火災警報器と吹出口は1.5m以上離してください。
14. ファンタップアップ変更の場合は、別売の天井パネルに付属の説明書をご覧ください。
15. リモコンを取付具などで壁などに固定して操作する場合は、蛍光灯を点灯させ、取り付ける位置でリモコンを操作し、室内ユニットが作動することを確認してから取り付けてください。
16. 直射日光の当たらない場所に据え付けてください。誤動作、部品の変形や破損の原因になります。
17. 動植物や食品に風が直接あたる場所には据え付けしないでください。  
動植物や食品に悪影響を及ぼす原因になることがあります。
18. 周囲の雰囲気が高湿度（乾球27℃、湿球24℃、相対湿度78%以上）にならない場所に据え付けてください。本室内ユニットは、JIS露付条件にて試験を行い、基準を満たすことを確認しておりますが、高湿度雰囲気内で運転すると室内ユニット本体表面、フレア断熱材、ドレン断熱材表面に結露し、露が落下する場合があります。



### ワイヤレスリモコン（別売品）使用時のご注意

- 電子瞬時点灯方式（ラピッドスタート方式）またはインバータ方式の蛍光灯の近くに室内ユニットを設置しますと、ワイヤレスリモコン（別売品）の信号を受け付けないことがあります。

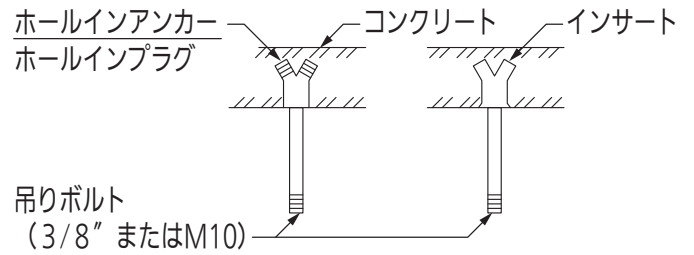
（電子瞬時点灯方式またはインバータ方式の蛍光灯はグローランプがありません。）

- 蛍光灯による障害を防ぐために、室内ユニットと蛍光灯との距離は2m以上離してください。
- 蛍光灯との距離を離しても障害が発生する場合は、次のどちらかの方法で処置してください。
  - ①赤外線フィルター《サービスパーツ扱い：CV6380156542（有償）》を室内ユニットの受信部に外から貼り付けてください。
  - ②ワイヤードリモコン（別売品）を取り付けてください。
- テレビ、ラジオ、ステレオ等の機器から1m以上離してください。（映像の乱れや雑音が生じることがあります。）

### 3. 室内ユニットの吊り下げかた

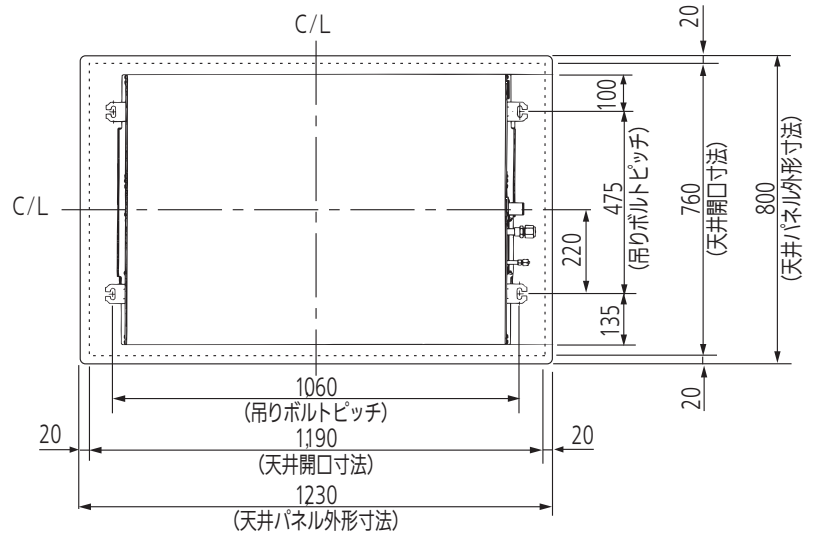
#### 1. 吊り込み準備

- ①吊りボルトの固定は（図1）あるいは他の方法により確実に固定してください。
- ②天井面の穴開けと吊りボルト位置の寸法は（図2）に従ってください。  
吊りボルトの長さは、本体吊り金具下面より15mm以上の長さにしてください。  
（（図-4）参照）
- ③据付原寸図（梱包に印刷）で吊りボルトのピッチを出してください。吊り金具と本体および天井パネルとの位置関係は（図2）の通りです。



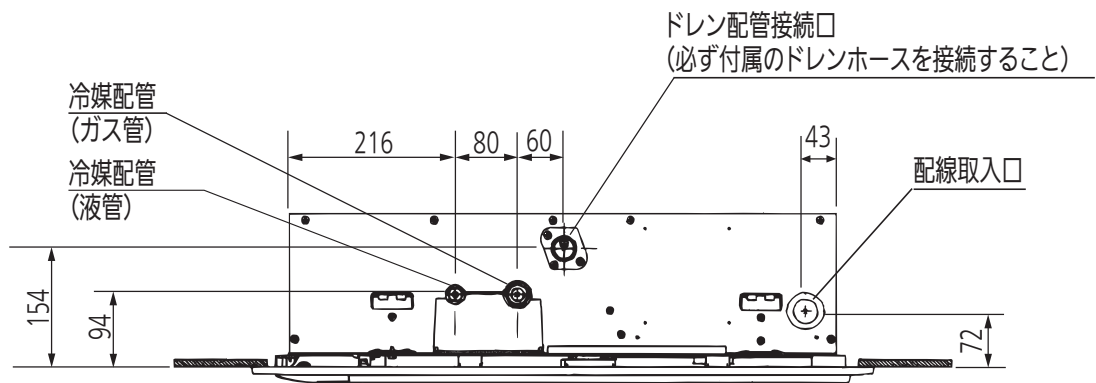
(図1)

単位：mm



(図2)

単位：mm



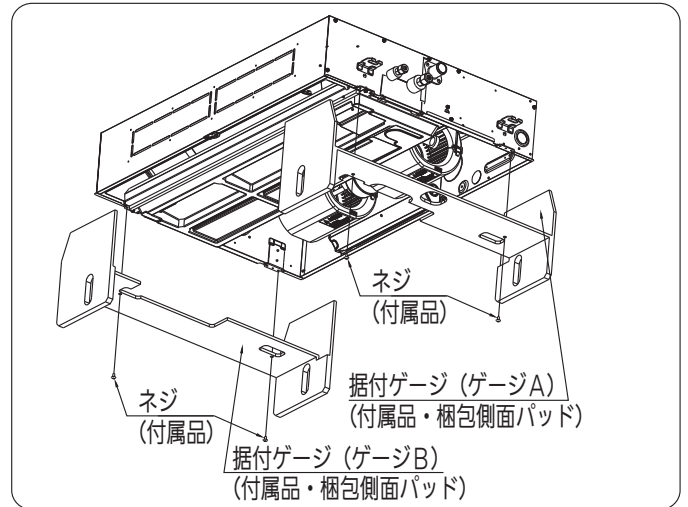
(図3)

単位：mm

## 2. 天井裏への吊り込み

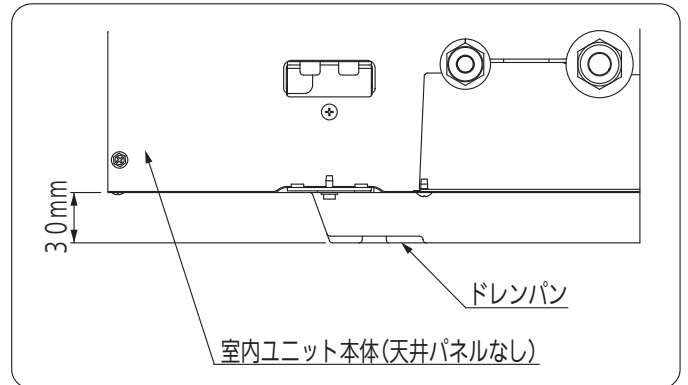
**⚠ 注意** ●必ず水準器で水平を確認してください。水平でない場合、水漏れの発生する恐れがあります。

- ①本体の吊り込みは、ゲージA・B（梱包パッド利用）を室内ユニット吊り金具に付属のネジ（各2本）で取り付けることにより、天井開口寸法になります。  
 注意：本体吊り下げ後に天井内の配管・配線作業が必要となります。したがって天井が既設の場合は本体を吊り下げる前に接続位置まで配管・配線工事を行っておいてください。



### ⚠ 注意

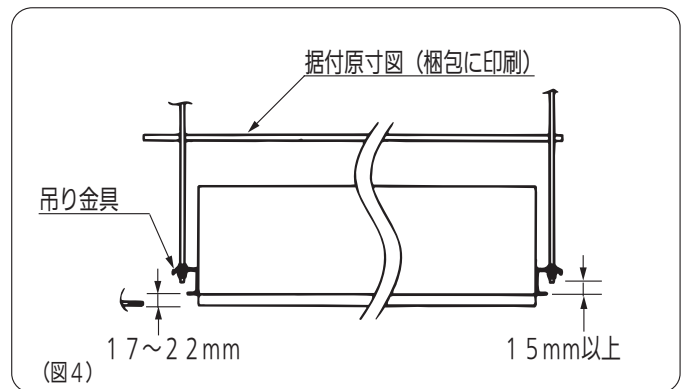
- 本室内ユニットドレンパンは、右図のとおり室内ユニットより30mmとび出しています。天井材を張る時、30mmを考慮してください。



- ②吊りボルトにワッシャー（付属品）とナット（現地手配）を取り付けてください。（4か所）

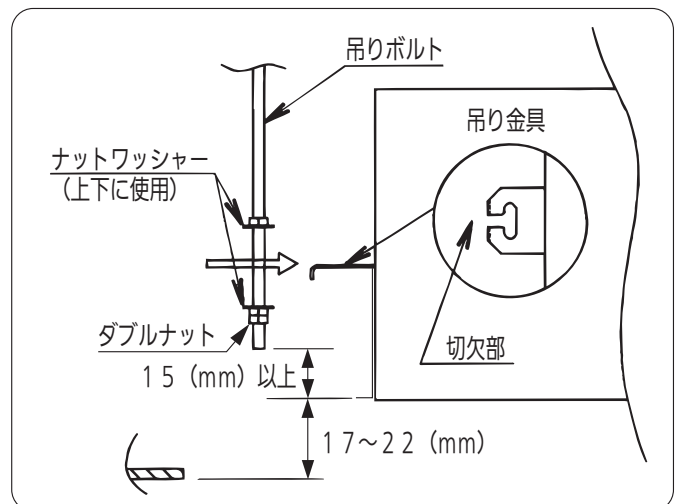
#### 注意

- ナットは3/8" またはM10のものを使用してください。
- 吊りボルトの長さは、右図のように吊り金具下面から15（mm）以上隙間があくようにしてください。吊りボルトの長さが長いと、天井パネル・ルーバモーターカバーに当たり取り付けできません。



### ⚠ 警告

- ③吊りボルトに、付属のワッシャーとナット（現地手配）を取り付けます。下側のナットは右図のようにダブルナットを使用してください。不備があると、室内ユニットが落下してケガをする恐れがあります。
- ④室内ユニットを持ち上げ、吊り金具の切欠部に吊りボルトを差し込みます。
- ⑤室内ユニット吊り金具下面と天井下面の寸法が17~22（mm）になるように調整し、吊り金具上下のナットを締め込んでください。ゲージA・Bを利用して室内ユニットの高さ調節ができます。



## ⚠ 注意

- 室内ユニットはドレンポンプを使用しています。必ず水準器で水平を確認してください。
- 天井材を張る前に、できるだけドレン配管工事・冷媒配管工事を完了してください。

### 3. 下がり天井を利用して据え付ける場合

- 別売の吸込口グリルを利用してください。

吹出口グリル 形名：DKT-CSL80B

- 吹出口グリルは別売品に付属の説明書に従って工事をしてください。

## 4. 冷媒配管のしかた

### ⚠ 警告

- 配管接続の際にフレアナットを締め付けるときは、必ずトルクレンチにて行ってください。  
(フレアナットを締めすぎると、フレア部を破損し、冷媒漏れによる酸欠事故の原因となります。)
- フレアナットの締付トルクは、下の表を目安に締め付けてください。
- 配管接続用フレアナットは必ず、ユニット本体に取り付けのもの、またはR410A用(2種)を使用してください。また、冷媒配管の肉厚は、下表のものを必ず使用してください。  
(一般のフレアナット(1種)、または肉厚の少ない薄肉配管では、従来の冷媒に比べ圧力が約1.6倍高くなるため、破裂、けが、または冷媒漏れによる酸欠事故の原因となります。)
- 据え付けや移設の場合は、冷媒サイクル内に指定冷媒(R410A)以外を混入させないでください。  
(空気などが混入すると冷媒サイクル内が異常高圧になり破裂などの原因になります。)
- 冷媒配管は、JIS H 3300「銅及び銅合金」のC1220のりん脱酸銅を使用してください。  
また、管の内外面は美麗であり、使用上有害なイオウ、酸化物、ゴミ、切粉(コンタミネーション)の付着がないことを確認してください。
- フレア接続時フレア部に塗布する冷媒機油は、少量のPAG油をご使用し、またその際にねじ部や樹脂部品に油が付着しないようご注意ください。  
(フレアナットがゆるみ易くなったり、樹脂部品の強度が弱くなり割れや露付き、水漏れの原因になります。)
- 冷媒配管には断熱工事を確実に行ってください。またガス管側の断熱材は耐熱120℃以上のものを使用してください。  
(指定通りの断熱がされていないと水漏れの原因となることがあります。)
- 高温/高湿度(30℃、80%RH以上)の環境で使用される場合は、断熱材を強化してください。  
(強化しないと、断熱材表面に結露することがあります。)
- フレアナットの締めすぎによるフレア部の破壊を防ぐため右表を目安に締め付けてください。
- 液側配管のフレアナットの締付けは、呼び寸法200のスパナ等で行ってください。

パイプ径	締付トルク	銅管肉厚
φ9.52 (3/8")	34~42 N・m (340~420 kgf・cm)	0.8mm
φ12.7 (1/2")	49~61 N・m (490~610 kgf・cm)	0.8mm
φ15.88 (5/8")	68~82 N・m (680~820 kgf・cm)	1.0mm

### 1. 冷媒配管の接続部

- 冷媒配管の接続部は本体側面にあります。（5ページ項目3-1（図3）参照）

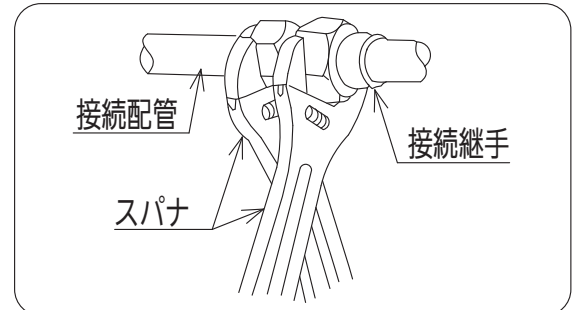
### 2. 冷媒配管のしかた

- 室内ユニットのフレアをはずします。
- 液管・ガス管（現地手配）をフレア加工します。（上表参照）

### 3. 配管接続部の締め付けのしかた

#### ⚠ 警告

- 配管接続部のフレアナットをはずすとき、および配管接続後にフレアナットを締め付けるときは、必ずダブルスパナで行ってください。（2丁掛け）

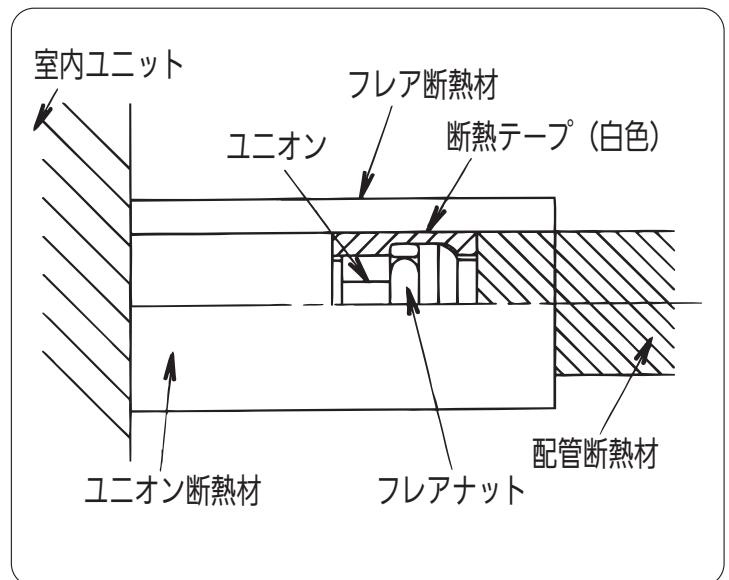


### 4. 冷媒配管の接続部

配管接続作業完了後、リークディテクタやせっけん水で配管接続部からのガス漏れのないことを確認してください。

### 5. 配管の断熱のしかた

- 右図に従って液管・ガス管とも、必ず断熱してください。また、フレアナット部に付属の断熱テープ（白色）を巻き付けてください。（液管・ガス管とも）  
そして、配管接続部には付属のフレア断熱材を巻き付けてください。断熱をしないと水漏れの原因になります。
- ユニットを吊った状態でフレア断熱材の合わせ目が上を向くように巻き付けてください。ガス側配管の断熱材は必ず耐熱温度が120℃以上のものを使用してください。



ガスヒートポンプエアコンは“高圧ガス保安法”、“冷凍保安規則”および高圧ガス保安協会制定の“冷凍空調装置の施設基準”を満たすように設置し、必要なものは届け出をしてください。

## 5. ドレン配管のしかた

※付属品は必ず当社指定の部品を使用してください。

指定外の部品を使用すると、室内ユニット排水口の破損による水漏れのおそれがあります。

### 1. ドレンアップ

ドレン配管高さを高くしたい場合は、天井下面より850mmを限度として上げることができます。

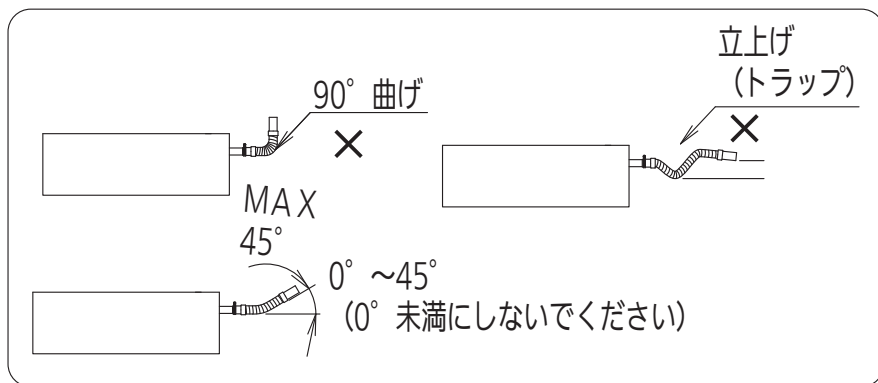
(※絶対に850mmより高くしないでください。)

### 2. ドレン配管の接続

- ドレンアップ以降より上り勾配で配管しないでください。  
(ユニット停止時ドレン水が逆流して水漏れの原因になります。)
- エアー抜き管は付けしないでください。(ドレン水が吹き出すことがあります。)
- 途中に山越えやトラップを作らないでください。(異常音の原因になります。)
- 下り勾配は(排水側を下に)1/100以上とってください。
- 集中ドレン配管がある場合は、配管サイズに注意してください。
- ドレン配管には圧力がかからないようにしてください。ドレン水が逆流し、水漏れの原因になります。

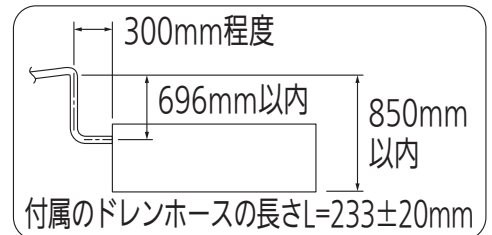
### 3. ドレンホースの接続

- 必ず付属のドレンホースを使用すること。
- 付属のドレンホースは90°曲げで使用しないでください。(最大45°)
- 途中に立上げ(トラップ)を作らないでください。(異常音の原因になります。)
- ドレン配管を接続する時、室内ユニット側の配管に力を加えないようにし、できる限り室内ユニット近傍で配管を固定してください。
- 室内ユニットのドレン配管接続口には、接着剤を使用しないこと。



### 4. ドレン配管のしかた

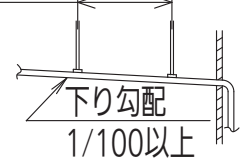
- 室内ユニット側の本体排水口にホースバンドを差し込んでおきます。
- 本体排水口にドレンホースの塩ビソケット(軟質側)を差し込みます。(接着剤は使用しないでください)



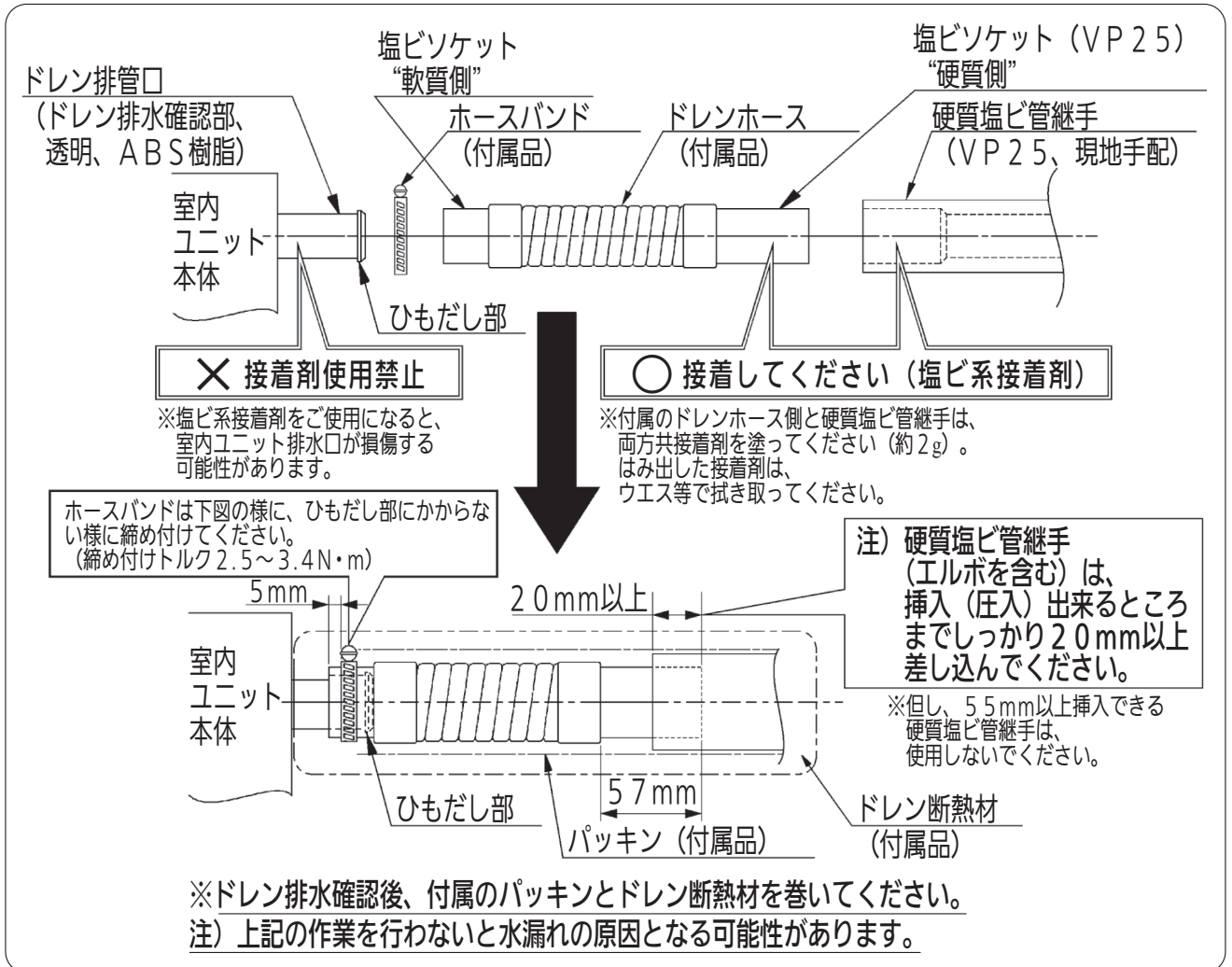
#### 接続時の注意



支持金具 1.5~2m



- 下図のようにドレン排管口ひもだし部先端を塩ビソケット“軟質側”内部の突き当たりまでドレンホースを挿入してからホースバンドで、しっかりと締め付けてください。
  - ・ ホースバンドはひもだし部にかからないように締め付けてください。（締め付けたトルクは 2.5～3.4 N・m）
  - ・ ホースバンド締め付位置は必ず上側にしてください。
- ドレンホースの塩ビソケット（硬質側）に硬質塩ビ管継手VP 25（現地手配）を接続してください。接続時、ドレンホース側と硬質塩ビ管継手には両方とも接着剤を塗ってください。（約 2g）



## 5. ドレン排水確認のしかた

配線、配管工事終了後、排水がうまく行なわれるか次の要領で確認してください。  
(作業前にバケツやウエスを用意してください。)

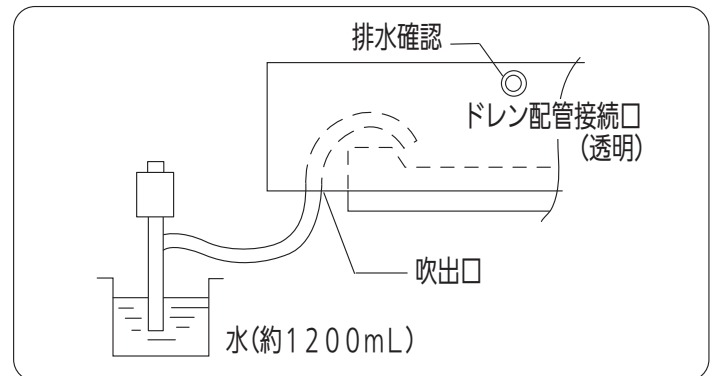
### 200V電源がきている場合

電装ボックス内の電源端子板 (R・S端子) に電源を接続してください。

### 100V電源がきている場合

昇圧トランスを使用し、電装ボックス内の電源端子板 (R・S端子) に電源を接続してください。

- ドレンパン部吹出口よりドレンパン内に排水確認用の水約1200mLを少しずつ入れてください。
- 室内コントロール基板のCHK (2Pプラグ) をワニグチクリップ等で短絡してドレンポンプを運転し、水の流れと水漏れの有無を確認してください。



## ⚠ 注意

- 室内コントロール基板のCHK (2Pプラグ) を短絡すると、ファンも回転しますので注意してください。ケガをする恐れがあります。
- 排水確認が完了したらCHK (2Pプラグ) のワニグチクリップ等はずしてください。
- 昇圧トランスおよびドレンポンプ排水確認のための仮電源は、はずしてください。
- ドレンキャップをはずした後、再度取り付ける場合には、ドレンキャップが奥まで差し込まれていることを確認してください。きちんと取り付けないと水漏れ等の原因となります。

## 6. ドレン配管断熱のしかた

- ドレン排水確認後、付属のパッキンを室内ユニットのドレン配管接続口の付根よりドレンホースを被うように隙間なく巻いてください。このときパッキンの合わせ目は天井面 (上向き) を向くようにしてください。その上に付属のドレン断熱材を巻いてください。
- 硬質塩ビ管継手VP25 (現地手配) も必ず断熱材 (現地手配) を巻いてください。(断熱をしないと水漏れの原因となるおそれがあります。)

## 6. 配線の接続

### ⚠ 注意

- 電気工事および接地工事は“電気設備に関する技術基準”“内線規程”、ガスヒートポンプエアコンの電源仕様および本室内ユニット添付の「据付工事説明書（電気工事編）」にしたがってください。

#### 1. 配線の接続部

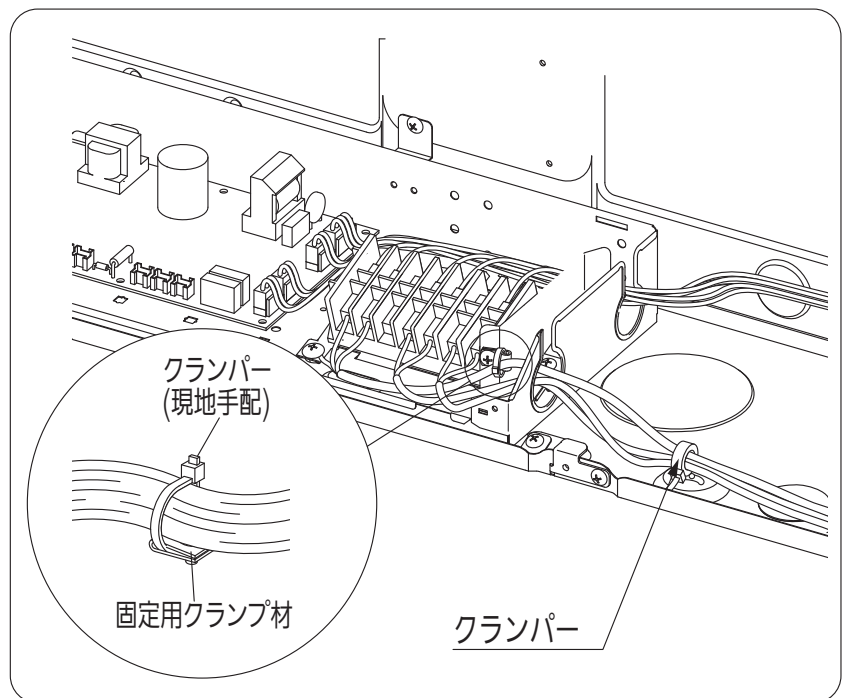
配線取入口は、室内ユニット側面の冷媒配管側にあります。

また、電装ボックスは室内ユニット下面吸込口面にあります（5ページ項目3-1（図3）参照）

#### 2. 配線のしかた

### ⚠ 警告

- 室内ユニット側面の電源取入口から本体内部に引き込みます。このとき、本体電源部の配線取入口を必ず通してください。配線取入口を通さないと、天井パネルにはさまれて、発火する恐れがあります。
- 電装ボックスの配線取入穴を通し端子板に接続します。このとき、室内ユニット内に組み付けのクランパーで各配線を固定してください。
- 電源配線は、端子接続部に張力が加わらないように固定用クランプ材にクランパー（現地手配）を通し、しっかりと固定してください。固定は必ず被覆部分で行ってください。
- 電気工事終了後、配線取入口にパテ（現地手配）で隙間をシールしてください。シールしないと露付きの原因となります。



### ⚠ 注意

- 昇降グリルを取り付ける時は付属の説明書を参照ください。

## 7. 別売品の取り付けかた

別売品には下記のものがあります。

取り付けについては、それぞれに付属している説明書を参照してください。

- ・天井パネル
- ・ワイヤードリモコン
- ・簡単リモコン
- ・ワイヤレスリモコン
- ・昇降操作専用リモコン
- ・昇降グリルメカキット
- ・昇降グリル固定金具
- ・吹出口グリル
- ・外気取り入れ、本体用ダクトフランジ
- ・自然気化式加湿器

## 8. 据付工事完了後のチェック項目

室内・室外ユニット、天井パネルの据付工事および電気工事完了後、下記項目についてチェック願います。

	チェック項目	不良だと…	チェック欄	要確認
1	室内・室外ユニットの取り付けはしっかりしていますか？	落下・振動・騒音		
2	冷媒ガス漏れ検査は行いましたか？	冷えない・暖まらない		
3	断熱は完全に行いましたか？（冷媒配管・ドレン配管）	水漏れ・結露		
4	ドレンはスムーズに流れていますか？	水漏れ・異常音		
5	電源の電圧は室内・室外ユニットの銘板と同じですか？	運転不能・焼損		
6	誤配線・誤配管はありませんか？	運転不能・焼損		
7	アース工事はされていますか？	漏電時危険		
8	電線の太さは仕様どおりですか？	運転不能・焼損		
9	室内・室外ユニットの吸込口および吹出口が障害物でふさがれていませんか？	冷えない・暖まらない		
10	燃料ガス漏れ検査は行いましたか？	運転不能・焼損		